



あっさり黙示録

11 『第五のラッパの裁き 悪霊の集団攻撃』

黙示録 9 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日はあっさり黙示録第 11 回目です。どうぞよろしくお祈りします。解説に入る前に、1 冊ご紹介したい本がありますので、少しお時間を拝借します。

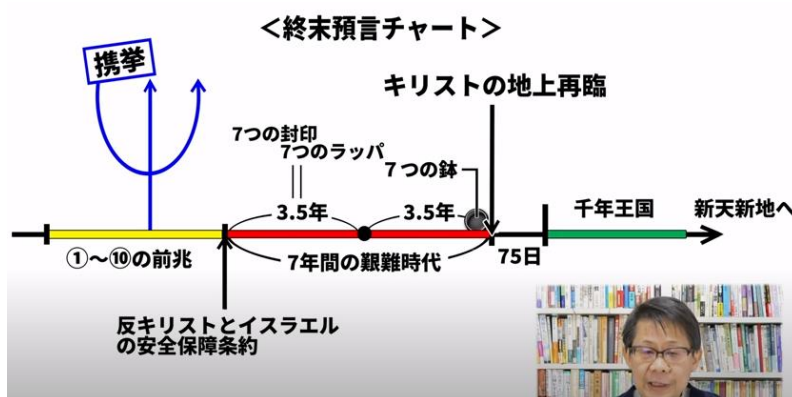
『筑井孝子が描く聖書の世界 第 4 巻』。筑井孝子(つくい たかこ)さんは、群馬県で活動されているクリスチャン画家です。お父様の遺言を起爆剤として、聖書(旧約・新約合わせて 66 巻全体)を、ご自分の絵で 7 巻シリーズで紹介する、という壮大なプロジェクトを展開中なんですね。

既に 3 巻まで刊行され、創世記からルツ記までが説明されています。4 巻目は旧約聖書のサムエル記から歴代誌まで。イスラエルが王政に入ってから約 500 年間に 42 人の王様が出て来ますが、その時代の出来事を 20 枚の油絵で綴った物語です。

絵だけ見ても、聖書が初めての方はピンと来ないと思うのですが、絵には必ず分かりやすい解説が付いています。解説は小島俊一(こじま しゅんいち)さん。私もよく知っているキリスト伝道者です。絵と解説付きで、聖書の中身をざっくり掴むことができるんですね。

第 4 巻にはおまけがあって、〈私が好きな詩篇〉というコーナーで、私自身がエッセイを書いておきますので、よろしければお買い求めください。“Yahoo!ショッピング 筑井孝子応援団”を検索していただくと購入できます。1 冊 800 円。とても安いと思いますよ。よろしければ活用していただきたいと思います。

さて、今日はあっさり黙示録の第 11 回目。ざっくりを、もっとざっくりしてあっさりなんですが、今どんなところに来ているのか復習します。



矢印が左から右に向かって進んでいますね。右に行けば行くほど、未来に向かっていていると考えてください。黄色のラインが、現在私たちが生きている時代です。

ある時、反キリストとイスラエルが安全保障条約を結びます。その初日が艱難時代の始まりです。では、艱難時代はいつ終わるのでしょうか。キリストの地上再臨が起こる当日です。

反キリストとイスラエルの安全保障条約締結の日から キリストの地上再臨の日まで 7 年間です。

ですから、艱難時代は7年間続くと言っていいでしょう。7年間は前半と後半に分けられます。前半は2つのシーズンに分けられて、1つ目は**7つの封印**、2つ目は**7つのラッパ**のシーズン。前回までの動画で、7つのラッパの内の4つのラッパの裁きを解説しました。今日は5番目のラッパの裁きです。5番目のラッパの裁きは、今までとはまるで違うんですね。

1番目から4番目までのラッパの裁きは自然界に下る裁きでした。人間が直接危害を被る裁きではなかった。しかし、5番目の裁きは人間に直接被害が及ぶ。裁きが人間を直撃する。それは、悪霊(あくれい)の大集団が人間に襲いかかり、150日間 塗炭の苦しみ・七転八倒の苦しみを与えるという裁きなんです。

黙示録9章

1 第五の御使いがラッパを吹いた。すると私は、一つの星が天から地に落ちるのを見た。その星には、底知れぬ所に通じる穴の鍵が与えられた。

一つの星は隕石や特定の天体の意味ではありません。これはサタン/悪魔のことです。黙示録に限らず聖書の中で、**星**が何かの比喻・たとえとして語られている時は例外なく、天使/御使いと言われる霊的存在を指します。

天使は皆がみな良い天使ではなく、神に反逆した天使/罪に墮落してしまった天使もいるんですね。この墮落した天使を墮天使(だてんし)と言います。悪霊ですね。(墮天使=悪霊)。墮天使のボスがサタン/悪魔です。ここの**一つの星**はサタンなんです。**一つの星が天から地に落ちるのを見た**。初めは天にいたけど、地上に投げ落とされた星。

ところで、この訳はちょっと正確ではないと言われています。**落ちるのを見た**という訳は、落ちて行くプロセスをヨハネが見たというイメージを持ちやすいですね。しかし、**落ちる**のギリシア語は“ペプトーコタ”。完了形の動詞なんです。ギリシア語の完了形は、過去に起こったことが現在に至るまでずっと継続していることを表す時制。つまり、既に天から落とされた、追い出されたサタン(墮天使のボス)を見たのです。

追い出されたサタンは何をするんでしょう。**その星には、底知れぬ所に通じる穴の鍵が与えられた**。**底知れぬ所**は専門用語で、英語でアビス。ギリシア語でアブソス。黙示録の中に7回出て来ます。アブソスは墮天使/悪霊たちを一時的に閉じ込めておく場所、いわば留置所なんですね。しかし、全ての悪霊が留置所に入っているわけではありません。今この世界においても、様々活動している悪霊がいます。

悪霊とか悪魔の話を知ると、「21世紀の今どき、そんな話をするのはナンセンス」と言う方がいるかもしれませんが、私は悪魔・悪霊については、2つの極端な態度は避けるべきだと考えています。
① 悪霊なんかいるわけない。そんなのは迷信だ。
② 全ての不都合・全ての病気・全てのトラブルは悪魔・悪霊のせいだ。
この両方の極端は避けなければなりません。

しかし、悪魔の存在を抜きにするなら、聖書はもう成立しないと思います。

最初に人間を罪に誘い込んだのは悪魔です。

イエス・キリストが公生涯の最初になさったことは、悪魔の誘惑を受けて立つということでした。イスカリオテのユダは、キリストを裏切るという大それた事をやってのけますが、なぜそんな事ができたのでしょうか。“彼にサタンが入った”と書いてあるんです。

ですから、悪魔・悪霊の存在を抜きにしたら聖書は成り立たないと思いますし、実際この世界に悪魔的な現象は起こっているんですね。

それはそうとして、アブソスは悪霊たちを閉じ込めておく留置場です。

2 それ（サタン）が底知れぬ所（アブソス）に通じる穴を開くと、穴から大きなかまどの煙のような煙が立ち上り、太陽と空はこの穴の煙のために暗くなった。

アブソスから煙が立ち上った。一時的に留置場に閉じ込められていた悪霊集団が一斉に解放されて、ウワッと世の中に出て行った。その時、太陽と空はこの穴の煙のために暗くなった。世界は暗くなった。

ところで、聖書によると神は霊です。なので、目で見えることはできません。

しかし、神が今自分のすぐそばにおられて見守ってくださっている、神がおられる、ということ人間が知覚できる現象で示し伝える事件や記事が、しばしば聖書に出て来るんです。

神が共におられることを人間が知覚できるように現される行為・現象をシェキナーと言います。

神そのものを見ることはできません。しかし、雲や光に包まれたり、火の柱が立ったり、そのようなことを通して、古代ユダヤ人たちは、神が今見守ってくださっていることを知ったんですね。

神のシェキナーの悪魔版がかまどの煙のような煙です。

閉じ込められていた悪霊たちが集団・暴徒化して一斉に世の中に出て行った時のその存在感を、人間が知覚できる現象で現しているんですね。それは暗くなったということです。

第4のラッパで、既に光の1/3が失われています。その上、悪霊たちが集団で出て来ることによって、艱難時代の前半、世界は一層暗くなる。汚（よご）れた空気感。そして、光を遮る現象。闇がヒタヒタと押し寄せて来るような臨場感。それが第5のラッパの時に起こるんです。

3 その煙の中からいなごが地上に出て来た。

それらには、地上のサソリが持っているような力が与えられた。

このいなごは昆虫ではなく悪霊のことです。一時的に閉じ込められているアブソスから悪霊たちが出て来たから、いなご、集団で中東世界をメチャクチャに荒らしまくった昆虫になぞらえているんですね。

昆虫ではないとハッキリ分かるのが、**4 そして彼らは、地の草やどんな青草、どんな木にも害を加えてはならないが、額に神の印（いん）を持たない人たちには加えてよい、と言い渡された。**

植物には全然関心を持たない。これは昆虫じゃないです。そして人間に襲いかかる。

5 その人たちを殺すことは許されなかったが、五か月間苦しめることは許された。

彼らの苦痛は、サソリが人を刺したときの苦痛のようだった。

**6 その期間、人々は死を探し求めるが、決して見出すことはない。
死ぬことを切に願うが、死は彼らから逃げて行く。**

悪霊たちの攻撃を受けた人間は5か月間、生きているのが辛くて辛くてたまらない。肉体的苦痛と精神的苦痛が同時に起こります。死んだほうがマシだと心の底から思うのですが、死ねない状態になる。まさに生き地獄の状態です。

それをもたらすいなごは明らかに悪霊ですが、もう1つの根拠はその外見です。

**7 いなごたちの姿は、出陣の用意が整った馬に似ていた。
頭には金の冠のようなものをかぶり、顔は人間の顔のようであった。
8 また、女の髪のような毛があり、歯は獅子の歯のようであった。**

このいなごの姿の全体像は馬。顔は男性。髪の毛は女性。口にはライオンの牙があり、9節を見ると羽を持っている。こんないなごはいません。馬の形をしたいなごなんかいませんし、そんな生き物は地球上に生存しません。いったいこれは、何を意味しているのでしょうか。もし旧約聖書の予備知識を持っているなら、これは悪霊のことだと閃くのです。この描写はひと言で言うと、人間と動物が融合している姿です。実に気持ち悪い奇怪な姿。

ところが、良い天使たちも、人と動物が融合した形で描写されていることがしばしばあるんですね。御使いには色んな位があって、最も上位・最高位の御使いはケルブです。複数形でケルビム。ケルブの姿は全体像は人間ですが、頭が4つ・手が4本・羽が4つ・足の裏は子牛の足の裏のよう。想像できますか？最も位の高い御使いケルブは、人と動物の融合体で描写されているわけです。

先ほどのいなごは人と動物の融合体なので、御使いだということが分かります。しかし、良い御使いではなく墮天使。

11 いなご（悪霊）たちは、底知れぬ所（アブソス）の使いを王としている。
悪霊たちには王様がいる。その王様ってだれですか。底知れぬ所（アブソス）の使い。
使いはギリシア語でアンゲロス。これが英語でエンジェルになりました。エンジェルは天使のこと。つまり、使い（アンゲロス）は墮天使のことです。

11 その名はヘブル語でアバドン、ギリシア語でアポリュオンという。
両方とも同じ意味で破壊者。破壊者という名を欲しいままにしている、悪霊どもの王様はサタン。アブソスの鍵を開けた星はサタンだ！というのは、ここまで読んで初めて分かるんですね。

さて、話をまとめましょう。人々は5か月間（150日間）、七転八倒の苦しみを受けますが、この悪霊の攻撃を受けるのは全人類ではないんです。完全に守られている人たちがいました。
4 そして彼らは、地の草やどんな青草、どんな木にも害を加えてはならないが、額に神の印を持たない人たちには加えてよい、と言い渡された。

額に神の印が押されている人たちとは誰でしょう。艱難時代に、全世界に出て行って御国の福音を宣べ伝える144,000人のユダヤ人伝道者たち。及び、彼らから聞いた福音を信じた人々。つまり、艱難時代にイエス・キリストを信じた人々。

イエスの支配下に入った人たちには、悪霊は指 1 本触れることができないのです。
この狂気の時代、人が正気を保ち、悪霊の攻撃から守られるための、唯一のシェルター/避難場所はイエスなのだということを、150 日間の苦しみを通して教えているんですね。

151 日目には彼らは癒されます。癒されて正気に返った時に「そうだ。自分たちが迫害している人たち、あのナザレのイエスを信じている人たちは聖徒であり、彼らが信じているイエスこそが本物のメシアなのだ」と気づかせるための裁きでもあるんです。

裁きは裁きですが、そこには建設的な目的が隠されていました。
それは思い切った方法ですが、そうでもしなければ目が覚めない人々に、本当の救い主を見出してもらうための神のメッセージでもあるのです。これが 5 番目の裁きです。

次回は第 6 のラッパについてご紹介します。よろしければ、チャンネル登録もお願いします。
ではまた このチャンネルでお目にかかりましょう。それまで皆さん、お元気でいてください。
さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。